

## 経営状況分析のしくみと留意点 ③ 流動性分析指標(その1)

### はじめに

先月の収益性分析指標の解説に引き続き、今月は流動性分析の各指標を解説してまいります。

例によって、文中の意見にわたる部分は私見であることをあらかじめ申し添えます。

流動性分析の主眼を一言で言い表すと、『営業規模に比較して、どれだけ「営業循環の中にある流動資産」を有しているかを分析するもの。』ということになるかと思えます。

営業循環とは、通常の営業の過程で、「現金・預金」が、⇒「原材料」⇒「未成工事支出金・仕掛品」⇒「製品・商品」⇒「完成工事未収入金・売掛金・受取手形」と資産の形を変えて行き、最終的に「現金・預金」として戻ってくることを言います。これら、「営業循環内にある資産」の金額から、工事未払金・買掛金などの「営業循環内にある負債」の金額を差引いたものを『運転資金』といいます。

この「運転資金」という用語は、皆様が一般的に耳にする、あるいは、口にする「あの」運転資金のことだと考えていただいてかまいません。

### 1. 必要運転資金月商倍率

#### 必要運転資金

月 商

分子の「必要運転資金」は、受取手形、完成工事未収入金、売掛金(厳密には「その他の営業債権」、未成工事支出金の合計額から、支払手形、工事未払金、買掛金(厳密には「その他の営業債務」、未成工事受入金の合計額を差引いたもの、ということになります。

分母の「月商」は、売上高を12で除して求められるもので、月平均の売上高になります。

したがって、必要運転資金月商倍率を「翻訳」すると、月平均の売上高に対する、期末日現在の必要運転資金の比率であり、噛み砕くと、『月商の何ヵ月分の運転資金を必要としているか。』を表す指標ということになります。この数値は低い方が高得点になります。

### 2. 留意点

必要運転資金の算定における、留意点は以下のとおりです。

#### ① 「その他の営業債権」「その他の営業債務」

営業債権・債務は、上述した「営業循環」の過程で発生する債権・債務であり、売掛金、買掛金などがこれに該当します。これらは、分子の算定式に含まれますが、「営業循環」過程以外から発生する、未収入金、未払金などの債権・債務は、この算式には含まれませんので、注意が必要です。

#### ② 未成工事支出金

分子の中には、「未成工事支出金」が含まれていますが、それ以外のたな卸資産、すなわち、材料や商品、製品、仕掛品、販売用不動産といった科目が含まれていないことです。

本来、「運転資金」には、すべてのたな卸資産の金額を含めるべきであると考えますが、この算式中には、これら未成工事支出金以外のたな卸資産を算入することはできません。

#### ③ 未成工事受入金

工事代金を完成前に受け入れた金額は、「未成工事受入金」であり、分子の控除項目に含まれていますが、工事以外の売上代金にかかる前受金はこの算式の控除項目にはなっていません。

②、③については、本来の経営分析の考え方からは、異質な印象を受けます。この辺りのところは、理論云々というよりも、「算式がそうなっているから」と、割り切って理解するしかないような気がします。

### おわりに

必要運転資金月商倍率についてのポイントは、「2. 留意点」に記載のとおり、性格が類似する勘定科目でも、算式に含まれるものと含まれないものがあるため、財務諸表の作成に当たっては、十分な注意が必要であるということです。

今回は、流動性分析の残り2つの指標を解説します。

(取締役 公認会計士・税理士 矢島和彦)